

資料④

2018年度 <教員調査> 質問項目 (Web.調査画面)

看護実践能力の向上に寄与する看護教員の養成と継続教育に関する調査

I D、パスワードをご入力ください。

I D:

パスワード:

平成30年度 厚生労働省科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
「看護実践能力の向上に寄与する看護教員の養成と継続教育に関する調査」

画面の指示に従って、ご回答ください。

[必須]

アンケートへの回答ご協力意思についてお答えください。

- 別紙「調査依頼状」に記載された内容を確認した上で、アンケートに協力する
- アンケートに協力しない

[必須]

Q1-1 あなたご自身についてお伺いします。年齢をお答えください。(1つだけ選択)

- ~29歳
- 30~39歳
- 40~49歳
- 50~59歳
- 60歳~

[必須]

Q1-2 性別をお答えください。(1つだけ選択)

- 男性
- 女性
- 性別を答えたくない

[必須]

Q1-3 教員としての通算経験年数（実習指導教員の期間は含まない）をお答えください。（1つだけ選択）
※実習指導教員とは、実習指導を主とした業務に就く養成所が配置する教員のことです。

- ~1年
- 2~4年
- 5~10年
- 11~15年
- 16~20年
- 21年以上

[必須]

Q1-4 現在の学内での役職をお答えください。（あてはまるものをすべて選択）

- 学校長等
- 副学校長・副学長等
- 教務主任・教育主事・学科長等
- 教務主任補佐・副学科長・補佐・係長等
- 特に役職はない
- その他

[必須]

Q1-5 現在の学内での役割をお答えください。（あてはまるものをすべて選択）

- 実習調整者等
- 国家試験担当者等
- 学級担任・副担任等
- 特に役割はない
- その他

[必須]

Q1-6 臨床での看護職（保健師・助産師・看護師）通算経験年数をお答えください。（実数を入力）

年

[必須]

Q1-7 教育背景（最終学歴）をお答えください。（1つだけ選択）

ここでいう最終学歴とは、これまで卒業（修了）した中で、最も高い教育の経歴のことです。看護に限りません。

養成所（専門・専修学校など）卒

短期大学卒

大学卒

大学院（修士課程）修了

大学院（博士課程）修了

その他

ここからは、現在勤務している教育機関についてお伺いします。

[必須]

Q2-1 現在勤務している教育機関の所在地をお答えください。

選択して下さい ▼

[必須]

Q2-2 現在勤務している教育機関の設置主体をお答えください。（1つだけ選択）

- 都道府県
- 市町村
- 日本赤十字社
- 全国厚生農業共同組合連合会
- 独立行政法人国立病院機構
- 公益法人
- 医療法人
- 学校法人
- 医師会
- その他の法人
- その他

[必須]

Q2-3 あなたが所属している課程をお答えください。（1つだけ選択）

- 看護師 3年課程（全日制 3年）
- 看護師 3年課程（全日制 4年）
- 看護師 3年課程（定時制 4年）
- 看護師 3年課程（統合カリキュラム）
- 看護師 2年課程（全日制 2年）
- 看護師 2年課程（定時制 3年）
- 看護師 2年課程（通信制）
- 准看護師 2年課程

[必須]

Q2-4 あなたが所属している課程の一学年の定員をお答えください。（1つだけ選択）

- 40人以下
- 41-60人
- 61-80人
- 81-100人
- 101人以上

[必須]

Q2-5 あなたが所属している教育機関に、教員の継続学習を支援する役割を持つ教員や組織はありますか。
（あてはまるものをすべて選択）
（例：教育担当教員、教育委員会、ファカルティデベロップメントFD委員など）

- 教育機関から役割を任命された教員がいる
- 教育機関から役割を任命された委員会等の組織がある
- 教育機関から役割を任命されていないが、その機能を持つ教員がいる
- 教育機関から役割を任命されていないが、その機能を持つ組織がある
- 教員の継続学習を支援する教員や組織はない

専任教員としてのあなた自身のことについてお伺いします。

[必須]

Q3-1 あなたはどのようにして専任教員になりましたか。（1つだけ選択）

※教員養成講習会（厚生労働省が認可した看護教員養成講習会を含む）、看護教員養成課程、国立保健医療科学院の専攻課程

- 5年以上の業務経験があり、専任教員として必要な研修（※）を修了した
- 3年以上の業務経験があり、大学や大学院で教育に関する科目を履修した
- 5年以上の業務経験があり、看護師または准看護師の教育に関して、同等以上の学識経験を有すると認められた

[必須]

Q3-2 専任教員として必要な研修を受講した場合、期間はどのくらいでしたか。(1つだけ選択)

約6か月

約8か月

約1年

[必須]

Q3-3 専任教員として必要な研修を受講した場合、中でも看護教員として役立ったと感じる学習内容を**最大で3つまで**選んでください。

教育の原理や基盤に関すること

教授・学習方法に関すること(講義・演習)

教授・学習方法に関すること(実習)

カリキュラムに関すること

担当科目の教授・学習方法に関すること

学習の評価に関すること

研究方法、支援に関すること

クラスづくり・運営や学生指導に関すること

困難を抱える学生の対応に関すること

組織や関係機関との協働、マネジメントに関すること

その他

[必須]

Q3-4 専任教員として必要な研修を受講した場合、看護教員としてすぐには役立たなかったと感じる学習内容を最大で3つまで選んでください。

- 教育の原理や基盤に関すること
- 教授・学習方法に関すること（講義・演習）
- 教授・学習方法に関すること（実習）
- カリキュラムに関すること
- 担当科目の教授・学習方法に関すること
- 学習の評価に関すること
- 研究方法、支援に関すること
- クラスづくり・運営や学生指導に関すること
- 困難を抱える学生の対応に関すること
- 組織や関係機関との協働、マネジメントに関すること
- その他

[必須]

Q3-5 専任教員として必要な研修を受講した場合、もっと学習が必要だったと感じている学習内容を最大で3つまで選んでください。

- 教育の原理や基盤に関すること
- 教授・学習方法に関すること（講義・演習）
- 教授・学習方法に関すること（実習）
- カリキュラムに関すること
- 担当科目の教授・学習方法に関すること
- 学習の評価に関すること
- 研究方法、支援に関すること
- クラスづくり・運営や学生指導に関すること
- 困難を抱える学生の対応に関すること
- 組織や関係機関との協働、マネジメントに関すること
- その他

[必須]

Q4-1 教員として行う継続的な学習の内容についてお伺いします。

教員としての能力を維持・向上するため学習している内容を教えてください。（あてはまるものをすべて選択）

- 教育の原理や基盤に関すること
- 教授・学習方法に関すること（講義・演習）
- 教授・学習方法に関すること（実習）
- カリキュラムに関すること
- 担当科目の教授・学習方法に関すること
- 学習の評価に関すること
- 研究方法、支援に関すること
- クラスづくり・運営や学生指導に関すること
- 困難を抱える学生の対応に関すること
- 組織や関係機関との協働、マネジメントに関すること
- その他

[必須]

Q4-2 前の設問でお答え頂いた「教員としての能力を維持・向上するための学習」について、その方法をお答えください。

(あてはまるものをすべて選択)

<input type="checkbox"/>	同僚等と自主的に行う学習会
<input type="checkbox"/>	学内で行われる研修会
<input type="checkbox"/>	都道府県や地域で行われる研修会
<input type="checkbox"/>	企業等が開催する研修会
<input type="checkbox"/>	大学や大学院が開催する研修会
<input type="checkbox"/>	学会が開催する研修会
<input type="checkbox"/>	大学・大学院に入学する
<input type="checkbox"/>	関連する書籍や雑誌等を読む
<input type="checkbox"/>	教務主任養成講習会の受講
<input type="checkbox"/>	その他 <input type="text"/>

[必須]

Q4-3 昨年度、学外で行われる研修等に年に何回くらい参加しましたか。1回の研修の長さは問いません。
(実数を入力)

回

[必須]

Q4-4 上記の研修に行くなど、あなたが継続的に学習するために使える所属機関からの経済的な支援はありますか。

(1つだけ選択)

<input type="radio"/>	ある
<input type="radio"/>	ない

[必須]

Q4-5 前問で、「継続的に学習するために所属機関から経済的な支援がある」と回答した方にお聞きします。その経済的支援は、年間でいくらくらいですか。（1つだけ選択）

- 5万円 以下
- 5～10万円 程度
- 10～20万円 程度
- 20万円 程度以上
- 使用した分が支給されるため、金額はきまっていない
- 不明
- その他

[必須]

Q4-6 所属している教育機関の中で、教育実践力を向上するためにどのような支援を受けることができますか。
（あてはまるものをすべて選択）

- 新人（新任）教員へのオリエンテーション
- 先輩・同僚教員によるメンタリングや相談対応
- 先輩・同僚教員による教授・学習方法のアドバイス
- 先輩・同僚教員が行う授業等への参加
- 学内の学習会や研修会等
- 研修会等（組織外）への参加のための時間や休日（代休を含む）の確保
- その他
- 特に支援は受けていない

[必須]

Q4-7 以下の項目は、看護教員として継続的に学習することに、どのくらい影響すると思いますか。
(各項目について1つずつ選択)

		全く影響しない	あまり影響しない	どちらともいえない	やや影響する	とても影響する
経済的支援があること	→	●	●	●	●	●
継続学習のために使える時間があること	→	●	●	●	●	●
継続学習の間、自分の業務を交代してくれる人がいること	→	●	●	●	●	●
同僚、上司の理解があること	→	●	●	●	●	●
継続学習の成果が昇進や昇格につながる	→	●	●	●	●	●
継続学習の成果が自らの教育実践の向上につながると感じられること	→	●	●	●	●	●
継続学習が物理的に近い場所や手軽に視聴できる環境で提供されること	→	●	●	●	●	●
周囲に継続的に学習するモデルとなるような人がいること	→	●	●	●	●	●
ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じられること	→	●	●	●	●	●

Q4-8 看護教員が継続的に学習することに関連して、以下のような仕組みがあるとよいと思いますか。
(各項目について1つずつ選択)

		全く そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	と て も そ う 思 う
看護教員としてのキャリアに応じた段階的な継続教育のプログラム	→	●	●	●	●	●
長期間職場を離れなくても、学ぶことができるプログラム	→	●	●	●	●	●
看護教員として蓄積した様々な教育・研修実績をまとめるポートフォリオシステム	→	●	●	●	●	●
看護教員のキャリアの指針となる、マップやキャリアラダー	→	●	●	●	●	●
看護教員としての資格の付与	→	●	●	●	●	●
看護教員としての認証制度	→	●	●	●	●	●
看護教員としての資格の更新制度	→	●	●	●	●	●
役割に応じた役職の付与（例：大学における教授、准教授、講師、助教など）	→	●	●	●	●	●
病院などで臨床実践を実施する仕組み	→	●	●	●	●	●
学習のための時間が確保されること	→	●	●	●	●	●
その他 <input type="text"/>	→	●	●	●	●	●

[必須]

Q5-1 教育実践の状況についてお伺いします。

実習における実習指導者との協働について、あなたはどのように考えていますか。なお、ここで実習指導者とは学生実習に関与する臨地の看護師を指し、実習指導者講習会の受講の有無は問いません。
(各項目について1つずつ選択)

		全 く そ う 思 わ な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	と て も そ う 思 う
実習指導者と実習前に十分な打ち合わせ等の準備ができています。	→	●	●	●	●	●
実習指導者は学生にとって安全な実習環境を整えている。	→	●	●	●	●	●
実習指導者と学生の学習目標を共有している。	→	●	●	●	●	●
実習中の教員と実習指導者との役割分担ができています。	→	●	●	●	●	●
実習では実習指導者が適切に配置されている。	→	●	●	●	●	●
学生は実習指導者からエビデンスのある看護実践を学んでいる。	→	●	●	●	●	●
学生は実習指導者の指導に満足している。	→	●	●	●	●	●
実習指導者は自信をもって学生の学習を支援している。	→	●	●	●	●	●
実習指導者は学生のロールモデルになっている。	→	●	●	●	●	●

[必須]

Q5-2 以下の項目について、あなたは看護教員としてどのくらいの力を保持していると思いますか。（各項目について1つずつ選択）

		全く保持していない	あまり保持していない	どちらともいえない	やや保持している	かなり保持している
看護師養成教育や、成人学習に関する基本的な知識	→	●	●	●	●	●
学習の3領域（認知・情意・精神運動）に沿って学習活動を分析する力	→	●	●	●	●	●
教育や学習に関する理論を活用してカリキュラムを開発する力	→	●	●	●	●	●
現在の医療や看護のニーズを反映したカリキュラムを設計する力	→	●	●	●	●	●
学生が主体的に学習し、成果が得られるような科目や授業を開発して運営する力	→	●	●	●	●	●
多様な学習形態や学習ニーズがあることを考慮して、論理的・批判的思考を促す力	→	●	●	●	●	●
臨床における論理的思考を育成する力	→	●	●	●	●	●
安全な学習環境をつくる力	→	●	●	●	●	●
専門的な知識・技術と看護専門職の役割を学べるよう、支援する力	→	●	●	●	●	●
情報技術（ICT）を教育に活用する力	→	●	●	●	●	●

		全く保持していない	あまり保持していない	どちらともいえない	やや保持している	かなり保持している
学生の学習成果を評価し、科目の改善につなげる力	→	●	●	●	●	●
自ら根拠のある看護実践をする力	→	●	●	●	●	●
新たな看護実践の創造につながるような、学習活動を考える力	→	●	●	●	●	●
看護教育と看護実践に関する知識を統合する力	→	●	●	●	●	●
同僚と看護教育の改善につながる議論をする力	→	●	●	●	●	●
未来の看護師に探求心をもつことを伝える力	→	●	●	●	●	●
論文を読む力	→	●	●	●	●	●
論文を書く力	→	●	●	●	●	●
多職種・他分野連携を意識した教育計画を立案する力	→	●	●	●	●	●
看護教育のよい実践例を同僚や学生、関係者に伝える力	→	●	●	●	●	●

		全く保持していない	あまり保持していない	どちらともいえない	やや保持している	かなり保持している
実習施設や、実習指導者と協働する力	→	●	●	●	●	●
倫理的、法的原則に基づいて行動する力	→	●	●	●	●	●
倫理的、法的原則を重視する姿勢を学生に示す力	→	●	●	●	●	●
専門職としての能力開発を継続する力	→	●	●	●	●	●
学生の専門職性（プロフェッショナリズム）を育成する力	→	●	●	●	●	●
自らの看護実践能力と教育実践能力をまとめたポートフォリオを作成する力	→	●	●	●	●	●
教育・学習方法を継続的に確認し、評価する力	→	●	●	●	●	●
他者からのフィードバックを得ながら自身の教育能力を評価する力	→	●	●	●	●	●
学習者の省察する能力を育成する力	→	●	●	●	●	●
カリキュラム、科目、クラスの内容を同僚とともに評価する力	→	●	●	●	●	●

		全く保持していない	あまり保持していない	どちらともいえない	やや保持している	かなり保持している
組織変革の際、組織の理念や目標に看護教育課程の目標を組み込む力	→	●	●	●	●	●
組織の中で、リーダーシップをとる力	→	●	●	●	●	●
看護教育課程の人材や資金の管理を行う力	→	●	●	●	●	●
他組織の好事例から学ぶ力	→	●	●	●	●	●
看護教育と看護実践の改善につながる政策提言をする力	→	●	●	●	●	●
チャンスを見極め、行動する力	→	●	●	●	●	●

Q5-3 看護教員が継続的に学習すること、教育実践力に関する継続教育のありかたについて、自由にご意見をお書きください。
(自由記載)